

研究結果報告書

植民地時期在朝鮮日本人社会における日韓大衆文化の交渉様相に関する研究－日流・韓流の文化的起源としての朝鮮文芸物を中心に－

所属： 高麗大学校 日本研究センター
役職： 研究教授
氏名： 金 孝順

本研究は、日本人社会における韓国文化ブーム時期（1900初年代と1920～30年代中頃）に朝鮮半島で刊行された日本語雑誌に翻訳・掲載された朝鮮文芸物（神話、伝説、民譚、詩、民謡等）、風俗や民俗関連記事、旅行記を文化史的観点から考察することによって、在朝鮮日本人社会における日韓大衆文化の交渉様相を明らかにすることを目的としている。またそれらを通し日韓相互理解を深め、日流・韓流という相互文化交流を持続・拡大させる土台を提供しようとするものである。

その目的を達成するために、「植民地時代の偉大な業績の一つ」として高く評価され、韓国近代文学の古典となった玄鎮健の長編小説『無影塔』の中心モチーフである無影塔（釋迦塔）伝説の変容過程を検討し、植民地時期における日本人研究者の朝鮮古代研究と朝鮮的価値感の発見及び、日本語翻訳との関係を検討した。

その結果、釋迦塔伝説の基本構造即ち、新羅の仏国寺の多宝塔と釈迦塔を彫刻した夫餘（百濟）の石工と彼の妻に起こった悲劇のモチーフは、植民地時期に大阪金太郎の『慶州の伝説』として日本語に翻訳した時はじめて創作され、その後、浜口良光の「戯曲無影塔譚（一場）」（『朝鮮及満州』第26巻第199号、1924.6）で具体的な登場人物の性格、名付け、相好関係など人物造形や叙事構造が施されたことが分かった。

また、玄鎮健の『無影塔』はそのような悲劇のモチーフと登場人物の造形などを採用し、主人公を新羅で働く夫餘（百濟）人の石工、阿斯達とその妻、阿斯女として設定することによって、植民地における朝鮮（人）の「民族主義思想」を具現していることが確認できた。

研究成果の公表について（予定も含む）

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

「1920年代朝鮮文芸の日本語翻訳と韓国近代文学-玄鎮健の『無影塔』を中心に-」
金孝順、ANU-KU日本文学研究 次世代共同ワークショップ〈The Interface of Japanese Language Literature（日本語文学のインターフェース）〉、2015. 3.24、オーストラリア国立大学（ANU）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

- * 「発掘：玄鎮健の『無影塔』の原典-浜口良光の「戯曲無影塔譚（一場）」-」、金孝順、『跨境日本語文学研究』第二号、2015. 6
- * 「朝鮮伝統文芸の日本語翻訳における政治性と玄鎮健『無影塔』に現れた民族意識に関する考察」、金孝順、『韓国日本言語文化学会』32号、2015. 10発刊予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

- * 『日露戦争期在朝日本人が描いた朝鮮の風景-『韓半島』文芸物翻訳集』
金孝順訳、亦楽、2016年3月刊行予定
- * 『韓日併合前後時期在朝日本人が描いた朝鮮の風景-『朝鮮(満韓)之実業』
と『朝鮮公論』の笑話・奇談翻訳集』金孝順・李承信訳、亦楽、2016
年3月刊行予定
- * 『植民地時期在朝日本人が描いた朝鮮の風景-『朝鮮及満州』金孝順・任
ダハム訳、亦楽、2016年3月刊行予定